

## オルガテック2010ーケルン国際オフィス家具見本市

会期：2010年10月26日(火)～30日(土)

会場：ドイツ連邦共和国 ケルンメッセ会場

### ー ファイナル・レポート ー

- ・ 110カ国から約61,000人が来場
- ・ 来場者は多国籍、意思決定者も多数
- ・ 41カ国、608社の出展者が成果に大満足
- ・ 身体の動きを促し、コミュニケーション、快適な雰囲気づくりに寄与するオフィス家具
- ・ INSIGHT COLOGNE に 1,500 人が参加

ケルンで5日間にわたって開催された「オルガテック2010」は、素晴らしい成果と参加者の十分な満足感を残して、10月30日(土)に終了しました。110カ国から約61,000人が来場し、世界のオフィス、ファシリティ家具業界のトレンドとイノベーションについて包括的な見通しを得ようと、業界をリードする見本市であるオルガテックを利用したのです。今回は41カ国、608社が出展者として新製品を紹介、出展者の61%、来場者の50%が海外からの参加でした。「ユーザー企業や官公庁の意思決定者が、オフィス・ファシリティ家具の投資準備のためにオルガテックを活用しています」と、ケルンメッセのオリバー・クアト副社長は説明します。「このことがオルガテックの国際的な性格と相乗効果を生み、業界全体の発展に寄与してきました。結果的に、オルガテックはオフィス・ファシリティ家具の見本市として世界をリードする存在であることを証明したのです」。また、オフィス・椅子・ファシリティ家具連盟(BSO)のヘンドリック・フント会長は次のように総括します。「オルガテックは国際的なイベントになりました。来場者はとりわけ、仕事のスペース、会議室、コミュニケーション空間、受付などの合理的なオフィスコンセプトを可能にする、質の高いソリューションを評価しています」。

### 国際的なトップレベルのコンタクト

オルガテックには業界大手企業のほとんどが出展しました。各社はオフィス・ファシリティ空間デザインの先駆的なソリューションやコンセプトを多数紹介、その革新力を提示し、来場者に十分にアピールしていました。どの分野でも出展者ブースに来場者があふれ、会場は活況を呈しました。出展者は、海外からの来場者が多かったことにも大変満足しています。今回は特にスカンジナビア、フランス、イタリア、スペイン、南米からの来場者が増加しました。また、来場者の多くが購買の意思決定者であったことも高く評価されました。事実、中立的な団体による来場者調査では、来場者の87%が購買決定に関与する人物であることが明らかになっています。これにより、オルガテックは「ボスが自分で訪れる見本市」としての性格をいま一度際立たせることになりました。多くの出展者は、専門店、卸売業者、建築家、インテリアデザイナー以外に、業界の最新情報を得るためオルガテックを訪れたユーザー企業の代表と有益なコンタクトが生まれたと話しています。ユーザー企業の業種は、銀行、保険、医療保険、自動車、化学、メディア、テレコミュニケーション企業、また小売チェーン店や連邦官庁まで様々です。具体的には、エアバス、アリアンツ、アウディ、BASF、ベルテルスマン、BMW、コメルツバンク、ダイムラークライスラー、ドイチェテレコム、ドイチェバーン、ドイツ銀行、E.ON(電気ガス会社)、アーンスト・アンド・ヤング、フラポート(フランクフルト空港)、IBM、ルフトハンザ、メトロ、プライスウォーター

ハウスコーパス、シーメンス、フォルクスワーゲンといった大手企業の代表が、中には大人数の視察団を組んでオルガテックを訪れました。このほか、官公庁や大学などの公的機関からも多数の来場がありました。

## 来場者の評価高いオルガテック

当見本市に満足していたのは出展者だけでなく、来場者の側も同様です。来場者調査では、来場者の78%がオルガテックに「満足」または「非常に満足」と回答、来場目的を果たせたかという質問に対しては、81%が「満足」または「非常に満足」と答えています。全分野を網羅する出展内容が功を奏し、来場者の80%が出展内容を「非常に良い」または「良い」と評価しました。このポジティブな評価の結果、回答者の92%が親しい業界の知り合いに「オルガテックへの来場を薦める」と答えています。

専門店の側からも好意的な評価が寄せられました。「需要が落ち込んでいる現況にあって、オフィス・ファンリティー家具分野をリードする、このように充実した見本市を開催すること自体が、業界そしてケルンメッセの大きな功績だと思います」と語るのは、ドイツオフィス販売協会(BBW)のトーマス・グロートコップ会長です。「オルガテックの成功は、ドイツ経済が再び上向いてきていること、そして、従業員の健康を守るだけでなく業績達成と創造性をサポートするよう商品力を高めているオフィス家具の可能性が、景気高揚に活用されていることを示しています。照明、音響、メディア技術の各展示センター(分野別の講演プログラム)、「ULTIMA OFFICE(究極のオフィス)」トレンドフォーラム、入念な準備を下に実施された、ケルン市内必見のオフィスソリューション見学ツアーなどが、専門店関係者に多様な視点を提供しました、これによって顧客に対しさらに専門的な助言をし、製品を提供することが可能になります」と話しています。

## オフィスにおける機能性、柔軟性、コミュニケーションと快適な雰囲気

出展各社は「オフィスは成功のファクター」をモットーに、洗練された各デザインブースで、効率的に仕事を進めるための斬新なソリューションを多数紹介しました。多くの出展者がオープンスペースのオフィスを展示、グループでの打ち合わせと個人の集中作業を同一空間で可能にする工夫だけでなく、働く人が快適と感じる雰囲気を作り出すことで来場者を納得させていました。最近のオフィス空間では一般的に、ひとつのスペースに様々な機能を持たせ、必要に応じて異なる要請に対応させるのがトレンドです。街の公園などにインスピレーションを得て、働く人がひとりで集中して仕事をする、チームで作業をする、ミーティングを開く、待つ、リラックスするといった異なる状況に対応できる総合的なオフィス家具システムを展示する出展者もありました。必要に応じて簡単に移動したり、買い足したりできるモジュール家具や、高さなどを自分で調節できる家具も多数出展されました。

ワンフロアのオフィスでは、室内の音響にどう対応するかが大きな課題です。出展各社は、この点でも考え抜かれたソリューションを数々提示しました。表面が吸音効果をもつ家具、「スペース・イン・スペース」システム、仕切りパネル、映写スクリーンや絵画に見せかけた吸音板などがそれです。ワンフロアのスペースやチーム作業の多いオフィスを対象に、人の声の響きを効果的に吸音するカーペットも紹介されました。オフィス環境では雑音だけでなく、働く人が座りっぱなしで動きが鈍くなることも問題です。オフィス椅子とデスクは使う人に合わせて高さを調節できるだけでなく、少しでも身体の動きを促すものでなければなりません。この点で、新しいタイプの回転椅子はエルゴノミクス(人間工学)を採用し

て座る人を完璧にサポートし、三方向への動きを可能にして動きと回転に十分な余地を持たせました。つまり、回転椅子を前と後ろだけでなく、左右にも傾けることができます。このほか、多くの出展企業は高さを自動調節できるデスク、さらに座るだけでなく立って使える高さまで上がるデスクを紹介していました。座ったり立ったり、姿勢をときどき変えながら働くことは、エルゴノミクスの視点からも望ましいとされています。

最新の会議・メディア技術も、オフィスの柔軟性と効率性向上に寄与しなければなりません。この分野では、タッチパネルがはめ込まれた会議テーブル、ビデオ会議のための360度カメラ、ハイテクプレゼンテーション用の大型スクリーン内蔵の壁、そして、「エレクトロニック受付嬢」(来館者が近づくと始動する情報サービスターミナル)などが紹介されました。会議・メディア装置は便利ですが目障りになりがちなので、使い終わったらボタンひとつでオフィス家具の中に収納されるタイプも多数ありました。最新テクノロジーが導入されているのは、照明の分野も例外ではありません。オフィス照明においても、LED照明が普及しつつあります。最新のLED照明は、大きな省エネ効果があり非常に長持ちするだけでなく、そのエレガントな美観もオフィス空間で好まれるようになりました。

### INSIGHT COLOGNE、ネットワーキング、業界最新動向についてのコミュニケーションプログラム好評

オルガテック2010では、各種のコミュニケーションプログラムでも来場者から大きな反響が得られました。プログラムでは、①事例に即したアプローチ②業界の最新動向③オフィス家具市場に関わるすべての関係者のネットワーキング、という3つの中核テーマが据えられました。そのハイライトは、INSIGHT COLOGNE - オルガテック建築の夜 - のプログラムです。これは10月29日の夕刻、オルガテックの一環として今回初めて開催されました。ケルン市内15カ所のオフィス、ファシリティ施設がこの日一斉にオフィスを開放、オルガテック来場者だけでなく一般からの参加も含め、1,500人が見学に訪れたのです。参加者は現地で、様々な要請に対応できる職場・コミュニケーション空間の成功例を自分の目で確かめる機会を得たわけです。ここで中核となっていたのは、21世紀のオフィスコンセプト、グリーンビルディング、サステイナビリティ、建物の再活性化といったテーマでした。ディスカッション、講演、インターアクティブな形での展示、ビデオ、パフォーマンス、朗読会などが各会場で行われ、それぞれ多数の参加者を魅了していました。このイベントに参加した関係者の中では、INSIGHT COLOGNEがオルガテックとケルン市の両方に大きな収穫をもたらしたという点で、意見が一致しています。

一方、メッセ会場内で行われた“ULTIMA OFFICE (究極のオフィス)”トレンドフォーラムも、テーマは業界の最新動向と模範例をめぐるもので、ここでも大きなフィードバックがありました。特に人気を集めたのは不動産の活用、サステイナビリティ、オフィススペースの再活性化に関する講演です。このほか照明、音響、働く人の健康、エルゴノミクスについての講演も行われました。さらに、照明、音響、メディア・会議技術の各展示センターにおけるプレゼンテーションも参加者の興味を喚起するものでした。

「ベストオフィス2010」の授賞式もまた、オルガテックのハイライトのひとつでした。授賞式は10月28日に“ULTIMA OFFICE”トレンドフォーラムに設営された舞台で行われ、出展者、来場者、メディア関係者が多数集まりました。今回4回目になる同賞は、経済誌WirtschaftsWocheが共催するもので、その目的はドイツ国内だけでなく海外も含めた未来志向のオフィスコンセプトを支援することです。今年の「ベストオフィス2010」賞は、ベルリンの太陽電池パネルメーカーSolon、オーストリア・リンツの鋼鉄メーカー

voestalpine Stahlに授与され、両社のオフィス設計チームも同時に表彰されました。両社のケースでは、クリエイティブなチーム作業に適し、かつ1人1人の存在がすぐ確認できる空間と、各人がひとりになるための空間とを合理的に切り替えることができ、また部署を超えたコミュニケーションをサポートする点が評価されました。

オルガテック2010の目的は、オフィス設計に関わるすべての関係者間のコミュニケーションを支援し、共通の利害をもつ共同体としての意識を強めることでした。このネットワーキングの基地となったのは、メッセ会場の中心を貫く大通り(Boulevard)です。このスペースでは「働く時間は生きる時間」"Working Time is Living Time"のモットーが掲げられ、来場者が会期中、ここに設営されたラウンジ空間を情報交換や自分の仕事に利用する姿が見られました。「建築家の朝食」のスペースも同様に情報交換を目的に設けられ、国内外から集まった著名建築家が、デザインの未来について活発にブレインストーミングを行いました。「ドイツ若手インテリアデザイナー賞2010」の授賞式も注目を集めるイベントでした。一方、関係者の交流パーティーは会期1日目の夜、大通りに場所を移した新会場で開催されました。出展者、来場者、メディア関係者が、「働く時間は生きる時間」のモットー通り、形式ばらない自由な雰囲気の中で、ハッピーアワーのパーティーをネットワーキングと親睦に利用していました。

[メッセデータ]

総展示面積：105,000m<sup>2</sup>

出展者数：41ヵ国608社（ドイツ国内238社、海外370社、海外からの出展比率61%）

来場者数：110ヵ国から約50,500人（外国人比率50%）

その他、経済界、メディア、各種連盟との提携により、割引チケットを利用して10,500人が来場。

※以上の数字は見本市統計管理協会(FKM)の指針に基づき算出され、公認会計士の監査を受ける義務があります(www.fkm.de)。

**次回の「オルガテック2012」は、2012年10月23日～27日に開催されます。**

デジタルプレスサービス:

ファイナルレポート、その他プレスリリース、出展者情報、新製品情報一覧、写真とロゴのデータバンクはホームページ(<http://www.orgatec.de/presse>)のサイトでご覧いただけます。

本レポートを転載される場合には掲載紙をお送り下さい。

オルガテックに関するお問い合わせは:

ケルンメッセ株式会社

〒106-0045 東京都港区麻布十番2-20-6 ジャノメ麻布十番ビル7F

Tel:03-5418-6245 / Fax:03-5418-6246

e-mail: kmjpn@koelnmesse.jp URL: www.koelnmesse.jp